



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川 清志 島崎 洋路
 題字

集中コース秋の部 開催報告
 『山仕事ってやっぱり面白い!!』



受け口の練習。この一点を狙ってきれいに、正確に
 トジブです。い限りととにはギあるのウシヤ
 とエ国が。りし%なんスィがドーイ
 しクロ家。の活

日本は世界に名だたる森林国で、国土面積に対する森林の割合(森林率)は67%です。これは「森と湖の国」と言われるフィンランドの74%に次ぐもので、スウェーデンの67%に比肩し、木材輸出国のロシア(48%)、アメリカ(33%)、カナダ(34%)や「世

界の肺」と言われるアマゾンの熱帯雨林を擁すブラジル(57%)を凌駕しています。中世には「森の大陸」と言われたヨーロッパは、産業革命以降森林の伐採をくり返り、現在ほとんども大事にされているとはいえフランスやドイツでは31%前後となっ

て毎年一千万ヘクタール近く(日本の人工林の総面積に匹敵)の植林を続けてきた中国でさえ、21%程度にとどまり、都道府県の中では森林率の低い茨城や千葉(ともに31%)、東京(36%)の足元にも及びません。



フェリングバ-を使って安全に倒す
 集コース秋の部
 11月10日、12日(木、土)

これほどたくさん森林が国土を覆っているのが、さてその中身は、というと、どうにもお寒いものです。森林面積の四割を占めるスギやヒノキ、カラマツなどの人工林はその半分以上が、必要な手入れが停滞していると言われてますし、燃料用や刈り敷きなどに利用されてきた里山の天然林(二次

林)も、人の手が遠ざかり、荒れています。暗く、風通しが悪く、ひよろひよろで梢の小さい木がびつり生えていて、下層植生が貧弱な森林は日本全国いたるところに散見されます。そして、これらの森林に必要な手入れは間伐です。

この一ヶ月間、「週末は雨降り」状態が続いていました。この週は前倒しして金曜日が雨。そこで少し日程をやりくりして、初日の午後と三日目の一日をかけて伐倒をやってもらいました。現場は込んだヒノキ林、枯れ枝でさえなかなか折れず、すぐにかかり木になります。フェリングバ-やクサビ、ロープやトビなど小道具を駆使しての伐倒でした。

集中コースの三日間は、森林の込み具合を調べ、必要なら実際に間伐をしてみようというものでした。間伐の基準は決して難しくはありません。森林の現況を調査したのち、島崎先生が提唱されたように、高さの二割程度の間隔を保てるように透かすだけです。搬出するか切り捨てか、次回の手入れ予定は、経費をどうするのか、などを助案すれば間伐のやり方もおのずと決まってきます。



林内暗く「目盛りが読みにくい

- 一 目 目**
 8時50分 島崎先生の山小屋に集合。日程説明。講師挨拶と塾生の皆さんの自己紹介
- 9時15分 まずみ平地林でチェーンソーの始動、玉切り、受け口作りの練習
- 11時 小屋に戻りチェーンソーメンテナンス。
- 11時50分 昼食。
- 12時40分 西春近野田山のヒノキ林に向かう。説明の後、測樹開始。
- 14時30分 通年コースのデータを参考に、切る木をマークし、伐倒に入る。
- 16時10分 作業終了。年輪で林齢を確認し、小屋に戻る。
- 17時40分 皆さん揃ったので交流会開始。予報より少し早く雨がポツポツ。物置に避難し所定の食料を消化し、21時前、解散。
- 二 目 目**
 8時40分 日程説明。今日は11年11月11日と1がたたくさん並ぶ日で、そのせいか、手抜きマンガのような雨。一日小屋での作業となりそう。『山造り承ります』に沿っての間伐指標の説明の後、昨日のデータ分析。15m四方のプロットで33本、上層がそれほど高くなかったのでもとに施業方針を作り、

11 時 40 分 昼食



見事に紅葉した小屋のカエデ

12 時 30 分 腹ごなしに小屋周辺で樹木分類。タヌキの糞のようなコブシの美ケヤキは軒並みヤノナミガタチビマムシに寄生されて黄葉せずに無残な落葉。カツラの香ばしい葉。小屋横の広葉樹林でクリタケを発見。今秋は雑キノコがさつぱり駄目でしたが、中でクリタケが一人気を吐く。

13 時 40 分 チェーンソーの目立て。刃の構造とデブスに関しての説明。

15 時 ロープの端末をアイ加工し、ぶり縄を作ってもらおう。小屋の柱で掛ける方の説明。

16 時 本日終了、解散。

三日目

8 時 30 分 昨日の雨も上がり、小屋に集合。今日は一日しっかり切るぞ!!と現場へ行き間伐開始。

12 時 昼食。休憩時間を割いて、昨日できなかったぶり縄による木のぼり練習。

見ているこちらが怖いほど、皆さんとても身軽で大胆。まだヒノキの木肌が濡れていて、降りる時にスボンがドロドロになる。

13 時 間伐再開。プロット内での間伐すべき本数 15 本を切りつくし、近くで形質の悪そうな木を 3 本選びそれを伐倒した。都合 18 本、枝払いと玉切りも終え、枝葉は残存木の周りに集めてプロット内の間伐終了。

15 時 作業終了。今日できなかった「ひつぱりだこ」の使い方説明。小屋に戻る。

16 時 解散。お疲れ様でした。質問、疑問、ご要望等あればまた御連絡ください。



巨大なクリタケ発見

参加者/桂川さん、木下さん、白幡さん
講師・スタッフ/早川、坂野

専門コース第四回開催報告

『今後も安全で確実な伐倒を』

伐倒で一番難しいのはひよっとして倒し方の設計・判断がもしもせん。たとえ一斉林であっても同じ木は一つとしてありませんし、今まで切った木とまったく同じ生え方の木を切ることは今後もないでしょう。重心の方向、隣接木の様子などを確認し、枝ぶりや風向きを見極めたうえで、過去の経験を総動員し、安全確実に倒す方向と方法を決めなくてはなりません。かかり木になることが避けられそうもない場合でも、致命的でない、自力で外せるかかり木にとどめるべきです。



一か八かで切ってみて、失敗したらそのまま尻尾を巻いて帰ってくる、というのはプロでなくても許されませんので、心しておくべきです。たとえば蔓絡みの木などは触らないのが無難でしょう。それらも含め、どんな道具を使って、どのよう倒すか、の判断はやはり難しいもので、思惑が外れた場合のリカバリーはさらに難しく、これらを安全に、確実にこなせる人が本当の上手と言えます。

鳩吹山の現場は、直径 20cm 程度のサワラやカラマツ、ヒノキからひと抱え近いスギやアカマツまで、なんだから針葉樹の樹木の園のような森林で、ただ樹高を 25m、26m 程度もあって込め合い、一筋縄では倒れそうではない。これを通り過ぎるだけ簡便な道具で倒れる時に思った方向に倒してみようというものでした。

二日間で 20



追い口の方向をカイド線で確認する

次回以降の予定

通年コース
第 14・15 回

炭焼き・きのこの菌うち

12 月 9 日・10 日

(金・土)

通年コースもこれで最終回です。ステンレス製の移動式炭化炉での炭焼きと、二日目はキノコの菌うちを予定しています。

炭材を仕込んで着火したら、時間に余裕がありますので、ぶり縄や昇柱器、ロープなどを使って木のぼりでもしてみますか？

夕方からは火の番をしながら忘年会です。差し入れ、一芸大歓迎です。幹事さん募集中です。

一杯飲みながら、囲炉裏を囲んで山の話を楽しみましょう。雑魚寝で構わなければ小屋で泊まります。おそろく深夜になるであろう窯止めまでお付き合いくだされればありがたい。

翌日窯出した炭と、キノコの原木はお持ち帰りしていただいで構いません。泥遊び、火遊び、埃まるけの作業です。マスク、タオルまたは手拭い、台所用手袋や、ヘッドランプなどがあるといいかも。

本ほど倒しましたが、スギカラマツはほぼ思った方向にきつちりと倒れ、サワラ、ヒノキも枝が強い分、かかり木になりやすいのですがこれもトビヤロープではずせました。一方アカマツは重心の読みが難しいうえ、かかり木の処理も簡単ではなく、相当手を焼きました。最終的には処理もできました。

今回が今年度の専門コース最終回でしたが、参加されたお二方、ともに免許皆伝かな。

まだまだ身につけるべき事はたくさんあると思いますが、今後とも安全で確実な伐倒を心がけるようお願いいたします。

専門コース第四回開催
11月16日・17日(水・木)
参加者/霜鳥さん、長坂さん
講師・スタッフ/早川、坂野

本のご案内

開講以来、講師としてKOA森林塾を作り上げてきてくださった、島崎洋路先生の生い立ちから現在にいたるまでの聞き書き集が、「NPO法人都市と農山村交流スローライフセンター」から2011年8月に発行されました。先生の森づくりへの情熱が、どこから来ているのか伝わってくるような内容です。印刷製本実費として1冊500円でお分けしています。50ページ+資料

内容は、

第1部「やることはきまっている(聞き書き2006年夏)」

第2部「易しい山造り：島崎先生の森づくりテクスト」

第3部「甦らせられるか日本の山：伊那路(1996)抜粋」



ご希望の方はKOA松岡まで。(mi-matsuoka@koanet.co.jp) 電話 0255-70-7065

リレー通信

毎日がわくわく!

桂川 直也

この夏、五十五年間過してきた名古屋に別れを告げ、伊那市の標高千mを越える山間に夫婦二人で引越してきました。初めは、新しい生活への期待と不安もありましたが、不安は地域の方との関わりを通して払拭されました。

くださった方から野菜や鹿肉などをいただき、地域の方の優しさや温かさを感じ、新しい地での生活への不安がなくなりしました。転居後は、住宅(ログハウス)の廃材を利用して、野外のテンプルやベンチ・薪小屋などを作ったり、畑を耕したりして新しい生活を楽しくしています。夏季に訪れてくれる名古屋の知人は、誰もが澄んだ空気と夏の涼しさに感激して、酷暑の名古屋に帰っていきま

いご夫婦がみえます。時々そのご主人が「薪を集めるために木を切りに行きましょう。」と誘ってくれます。最初は、初めて使うチェーンソーを持って近くの林に出掛け、赤松を伐木して軽トラで運び出すことのできる大きさに切って運んできました。慣れない仕事で何日か筋肉痛になりました。その後何度か誘っていたが、コナラや赤松を切り倒して運び出しました。

チェーンソーの使い方や伐木の仕方、日々のメンテナンスについて学習し、午後から山に入って測樹や伐木の実践をしました。二日目は雨のため、室内で間伐の有効性や方法、チェーンソーの目立てやロープワークについて教えていただきました。最終日は、再び山に入り、伐木を中心に活動しました。集中講座を通して今後の生活に役立つことを数多く学ぶことができ、とても有意義な三日間でした。

こちらへ移り住んで三ヶ月半、夏には住宅の梁に黄色スズメバチが巣を作るうとしたため、殺虫剤を片手にバルコニーでスズメバチとバトルをしたり、秋に入ると鹿が畑の大根の葉を食べに来るので網を張って鹿よけを作ったりしました。こうして、以前からこの地で暮らしていた生き物と敵対することもあれば、多くの山野草や昆虫などと触れ合って自然を楽しむこともありました。これからは、自分がどのように自然と関わって生活していくのかを考えながら生活を楽しくしていきたいと思っています。また、地域の人々とのかわりも楽しみです。

リレー通信

森林整備と私 山田 哲久



転居して間もなく常会(地域の月例会)があり、話し合い後にバーベキューをすると言つことで、一升瓶を片手に夫婦揃って参加しました。翌日から、自宅に訪ねてきて

寒い冬を暖かく過ごすために必要な薪を集めることは本当に大変なことです。我が家では、この冬に使う薪を自分で確保することが不可能なので、そのほとんどを購入します。薪も購入すると一冬でかなりの金額になります。次の冬からは、できるだけ自分の力で薪を確保できるように頑張りたいです。

横浜の山田(哲)です。私は若い頃は、毎夏、長男と一緒に宿泊登山をしていました。(八ヶ岳、雲取山、苗場山等)ただその地域に邪魔し、草木や自然美を愛でて帰ってくる一介の旅人で、その地域との関わりも無く素通りしているだけでした。私が「森林」と関わるキツカケは、サラリーマン生活で五十歳の大会に到達したときに初めて「定年」という事態が、遠くから窺っていることを感じたことに始まりです。たまたま伊豆地区で森林の間伐ボランティア要員募集の新聞記事を発見し、初参加しました。NPO法人「地球緑化センター」が開催する様々な地域での町おこし、村おこしも兼ねた行事でした。静岡県伊豆、福島県会津、長野県小海等にはサンディボランティアとして鋸一本で除間伐作業に暇をみては参加し、汗を流しました。やが



て自主活動グループとして
発展しそれぞれの地域で、鉦
はおるか、チェーンソーや刈
払機などの動力機械を駆使
し活動中です。

そのうちのひとつである小海
町の場合、町役場が地域の財
産区の人々との間に入り、ポ
ランティアグループとの仲
介、調整、協力、援助を行っ
て頂きました。他に秩父地区
の場合、秩父市役所が当初関
与したものの、現在は秩父森
林組合の間伐技術を勉強す
る事を主に、土日の一泊二日
で森林浴も楽しみながら活
動しています。ただし、伐倒
対象木が既にマーキングさ
れ、切り捨て間伐が主体で
す。ノーマーキングでも頂部
が変形していたり、二股に分
かれています場合は将来の有
用材たり得ないのは、素人目
でも判断出来るので、間伐し
ていました。ボランティアグ
ループ内で議論しているの
ですが、私たちの活動は単な

る森林組合
に対しての
役務提供
で、下働き
をしている
のではない
か。いやい
や間伐作業
で森が綺麗
になれば良
い。ノルマ
が有るわけ

でもなく一日中森の中で気
持の良い汗をかき、林内に
光が差し込みそれは素晴ら
しいことだ。など、意見が
様々で、ワイワイガヤガヤを
楽しんでいるところ
が現況でしょうか。森林の健
全さを回復し、元気を取り戻
し、私たちが一日中森の中で
元気成分(フィトンチッド)
を浴び健康になり一挙両得
というボランティア活動で
す。

となり、このままでは参加が
無理であると判断し、本年三
月思い切つてサラリーマン
生活にピリオドを打ちまし
た。

数年前にネットサーフ中
に、「島崎洋路先生主宰の森
林塾」をヒットし、『山造り
承ります』を読み、目から鱗
という感動でした。今ある森
林(人工林)の価値を向上さ
せ、間伐材も有効活用し、林
業を業とし成立させようと
いう意識は私には全くあり
ませんでした。衰退産業と見
ているのが正直なところで
す。六十歳の一区切りを迎え
たら、門を叩こうと計画して
いました。不運にも大阪勤務

あつても良いのではと自問
しています。今少し森林を取
り巻く利害関係など、経済的
視点からの実態の理解の勉
強が必要なと森林塾に参
加し、痛感している現在で
す。

私自身は、一人親方でも仕
事ができるレベルまで技術
アップし、一層の安全作業を
確保したいと思っています。
現在は職業訓練校(造園コー
ス)に通っていますが、樹木
の剪定等庭木の手入れや間
伐等日々木々に接触してい
るのが一番心の落ち着く日
常環境です。尤も樹木名の同
定には甚だ疎いのですが、今
後の活動をどのようにウエ
イト付けしようか等迷い道
の途中といったところで
しようか。横浜での家庭生活
も配慮し、微力ながらも森林
整備の一端に加担したセカ
ンドライフを謳歌したいも
のだと思う今日この頃です。

樹のコラム

矢筈様の木

ヤハズハンノキ 離弁花

カバノキ科 ハンノキ属

この木を見上げると、ハ
ートの形をしたかわいらしい
葉っぱが、こんなにちわ、と枝
に揺れています。名前の通り
葉の先がへこんでいて、なる
ほど！と膝を叩きたくなり
ます。

本州の中部、山形から福井

の日本海側に分布する日本
固有種で、深山から亜高山帯
に多く、標高の高い所にあ
り、沢沿いや崩壊地などに多
くみられます。山小屋の近く
では、春に樹木分類をした鳩
吹山にもあります。

葉は互生に付き、葉の縁に
は不揃いの重鋸歯があり、側
脈は羽静脈になります。花は
四月から五月で葉の展開前
に咲き、白樺のような尾状の
花が付きます。雌雄同株で、
開花する前は赤褐色で二、
五個の雄花と雌花は一、二
個で柄があります。果実は堅
果で小型のまつぼっくりの
ようであわいらしいです。ク
リスマスのリースにも利用
できます。このヤハズハンノ
キの葉はとも特徴のある
葉っぱなので、きつと初めて
この木を見た人でも覚える
ことができると思います。

初めて私がこの木と出
会ったのは八年くらい前
でした。まだ若葉の頃で、黄緑
色の柔らかそうな葉に陽が

すけてとてもきれいでした。
葉っぱがハートの形をして
いたことがすごく印象的で
すぐにこの樹の名前を覚え
ることができました。

ハンノキ属は他にヤシャ
ブシ、オオバヤシャブシ、ヒ
メヤシャブシ、ミヤマハンノ
キ、ハンノキ、カワラハンノ
キ、タニガワハンノキ、サク
ラバハンノキ、ケヤマハンノ
キ、ミヤマカワラハンノキが
あります。サクラバハンノキ
は珍しい樹で、自生地も少な
いそうです。カワラハンノキ
とミヤマカワラハンノキは
分布域がはつきりしていて、
カワラハンノキは東海、近畿
地方以西に分布し、ミヤマカ
ワラハンノキは東北、中部地
方に分布しているそうです。
ハンノキ属は、花や果実が
どれもほんとうに良く似て
いて、特に落葉した後の果実
だけでは、私は見分けるのは
とても難しいです。「鶯」

あわりに

矢筈って矢の前？後？矢
尻とどう違うの？えッ、そん
な筈では？



ヤハズハンノキ

投稿大歓迎。ご意見、ご質
問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

